

「トヨタタイムズ」フルバージョン

- 金曜日 - 25 3 月 2022

少し前からテレビでよく流されているトヨタの電気自動車について、香川照之が豊田章男社長にインタビューし最後に「フルバージョンは見ごたえあるよ」と言い残して終わる CM が妙に頭に残っていました。そんなに見ごたえあるのかと思って、実際に見てみましたが、なるほどとても興味深い内容でした。トヨタのカーボンニュートラルに対する姿勢が非常にわかりやすく説明されています。

冒頭に、先般のバッテリー電気自動車(BEV)の発表会における豊田章男社長のスピーチがあるのですが、ここにカーボンニュートラルに対するトヨタの考え方が凝縮されています。一語一句よく練られたスピーチだと感心しました。今日はそのスピーチ内容をご紹介します。詳しくは本物のフルバージョンをご覧ください。(下記 URL)

https://toyotatimes.jp/spotlights/chief_editor/074.html



撮影:三橋仁明/N-RAK PHOTO AGENCY トヨタタイムズより
バッテリーEV 発表時の豊田社長のあいさつ

カーボンニュートラル・・・

それはこの地球に生きるすべての人たちが幸せに暮らし続ける世界を実現すること
その役に立つことが私達トヨタに願いでもあり、グローバル企業としての使命
その中では一つの選択肢だけですべての人を幸せにすることは難しい
だからこそトヨタは世界中のお客様にできるだけ多くの選択肢を準備したい

トヨタのバッテリー専用車 BZシリーズ ビヨンドゼロ
CO2排出などのネガティブインパクトをゼロにするだけでなくその先も目指していく
バッテリーEV (BEV) でも選択肢を広げる
具体的には2030年までに30車種のBEVを展開 フルラインナップでBEV

BEV for Everyone・・・

様々な地域のニーズ、お客様のライフスタイル、商用車のラストワンマイルから長距離にいたるまで
もっとお客様に寄り添うことができる
今日紹介したBEVはそんな先の話ではなく、ほとんどはここ数年以内に出てくるモデル
2030年にBEVの販売台数で年間350万台を目指す

トヨタは1997年に世界初の量産ハイブリッドカー「プリウス」を世に送り出した
しかしそれ以前からBEVの開発は開始されていた
電池の領域では、トヨタは長年にわたり内製で電池の研究開発と生産を続けてきた
資源の面では、トヨタ通商が2006年からリチウムなどの調査に着手し安定的な資源確保を進めている
1990年代BEVとともに開発が始まったのが水素で走る燃料電池自動車であった

現時点では地域によってエネルギー事情は大きく異なる
だからこそトヨタは各国、各地域のいかなる状況、いかなるニーズにも対応しカーボンニュートラル
の多様な選択肢を用意したい
どれを選ぶか、それを決めるのは私達ではなく各市場でありお客様

どうしてここまでして選択肢を残すのか？

未来を予測するより、変化にすぐ対応することの方が重要
だからこそ、正解への道筋がはっきりするまでお客様の選択肢を残し続けたい

トヨタが目指すのは地球環境への貢献や人々の幸せを願い寄り添う企業
今の子供たち、その先に続く人たちに少しでもよい未来を残していきたい

未来はみんなで作るもの
自動車産業には日本のモノづくりと移動を支えてき550万人の仲間がいる
世界にはもっと多くの仲間がいる
みんなが意志と情熱を持って心をつなげて行動すれば、次の世代に美しい地球とたくさんの
笑顔を残すことができる

私はそう信じている そして必ず実現する

以上が豊田社長のスピーチです。基本的に語尾の省略を除き全文書きとっています。色を変えているところは、独断による重要箇所と感じたところです。

印象に残った言葉は「今の時点ではどれが正解がわからない」と「我々はグローバルにフルラインアップで供給している」という二つです。この二つが「すべてが本気」という方向性の原点のように感じました。